

にしみたか学園



にしみたか学園

令和元年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1 コミュニティ・スクール委員会の活性化 2 保護者、地域住民の学園参画の推進	
取組	1 CS委員会の周知 2 承認事項内容の事前配布 3 学園ホームページの更新 4 CS推進員の活用（地域未来塾への派遣） 5 CSと教員の合同熟議の実施	
	成果	課題と改善方策
	1 CS委員会だよりや、HPで周知された。 2 年間計画を配布し、承認事項内容を年度当初に確認できた。 3 学園ホームページは昨年度より改善された。 4 地域未来塾への派遣はできた。 5 CSと教員の合同熟議は実施できた。	1 ホームページの更新をさらに進める。 2 CS紹介を次年度も行う。 3 CSと教員の合同熟議は幅を広げて次年度も実施する。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1 三鷹市小・中一貫カリキュラムの検証（道徳） 2 乗入れ授業 3 児童・生徒の交流活動	
取組	1 学園研究として「道徳の授業」を実施する。 2 「乗入れ授業」外国語活動と英語、体育と保健体育で実施 3 小・中一貫カリキュラムの改定 4 運動会でのボランティア体験 5 ふれあいボランティア（中→小） 6 プレ講座（小6中学生体験） 7 部活動体験（1月）	
	成果	課題と改善方策
	1 学園研究として発表をおこなった。 2 「乗入れ授業」外国語活動と英語、体育と保健体育で実施した。 3 小・中一貫カリキュラムの改定は進んでいる。 4 中学生による小学校運動会ボランティア体験はできた。 5 ふれあいボランティアは実施できた。防災訓練には約100名の中学生の参加があった。 6 プレ講座は実施できた。 7 1月に部活動見学として実施できた。	1 「道徳の授業」は次年度も各校で継続して行う。 2 「乗入れ授業」は小学校からは数学・英語に。 3 小・中一貫カリキュラムの改定は今後も継続する。 4 中学生による小学校運動会ボランティアも継続する。 5 ふれあいボランティアも継続する。 6 プレ講座は来年度も行う。 7 部活動見学は継続して行う。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1 三鷹市小・中一貫カリキュラム 2 にしみたかスタンダードの活用による授業力向上 3 授業のユニバーサルデザイン化 (UD) による分かる授業の推進 4 主体的・対話的で深い学びの推進 5 ICT活用	
取組	1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用 2 スタンダードによる教員の指導の統一 3 「学習習慣の定着」のため地域未来塾を実施 4 中学校部活動の活動時間にルールの厳守 5 ICTを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開 6 「思考の場」を増やした授業展開	
	成果	課題と改善方策
	1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用を進めた。 2 スタンダードによる教員の指導の統一は継続した。 3 地域未来塾は継続実施した。 4 中学校部活動の活動時間にルールの徹底を図った。 5 ICTを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開を進めた。 6 「思考の場」を増やした授業展開をすすめた。	1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用を進める。 2 スタンダードによる教員の指導の統一は継続する。 3 地域未来塾は継続 4 中学校部活動は部活動指導員、外部指導員活用を図る。 5 ICTを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開。 6 「思考の場」を増やした授業展開をすすめる。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1 考え議論する道徳 2 いじめの早期発見・早期解決 3 情報モラル教育 4 自己有用感の醸成	
取組	1 学園研究を通した、「道徳における」思考力を高める授業の実践 2 いじめの早期発見早期解決を図る。 3 スマートフォン等情報機器活用教室の開催 4 学校行事等で、児童・生徒が「主体的に考え活動する」場の設定	
	成果	課題と改善方策
	1 考え議論する道徳は学園研究において実践できた。 2 いじめの早期発見はQU等各種アンケートにより発見できている。 3 セーフティ教室等で情報モラル指導を行った。 4 発達段階に応じて、児童・生徒に授業や行事を通して「主体的に考える」場の設定を行うことができた。中学校では運動会、合唱コンクールにおいて生徒の主体性をはぐくんできた。	1 道徳はさらに研修を深め、週1回の指導案検討を取り入れる。 2 いじめの解決のため、丁寧な対応と未然防止のためのスキルトレーニング等を導入する。 3 情報モラルについては家庭と連携を深める。 4 短時間でも授業や行事を通において「主体的に考える」場を設定する。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1 基本的な生活習慣の確立 2 体力向上 3 給食を活用した食育	
取組	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底 2 生活習慣チェックリストの活用（学期始めに実施） 3 1校1取組、1学級1取組の実施 4 給食を活用した食育の推進 5 中学における部活動の推進 6 中学校における「命の教育」・校内駅伝大会の実施（交通対策委員会）	
	成果	課題と改善方策
	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底はできている。中学3年生は受験もあり改善ができていない。 2 生活習慣の定着は進んだ。 3 1校1取組1学級1取組は実践できた。中学校の駅伝大会に向けた取組による体力の向上及び交通対PTAとの連携(1500M男子21秒・女子8秒向上)運動好き6P向上した。中学生東京駅伝では本校生徒が三鷹市代表として貢献し個人記録8位に入った。 4 栄養士による食育の推進はできた。 5 部活動は取組みができている。野球部の指導員の導入ができた。 6 命の教育は中学3年生で実施した。	1 早寝・早起き・朝ごはんの指導は継続していく。 2 生活習慣の指導は継続していく。 3 1校1取組1学級1取組は継続していく。 4 栄養士による食育の推進は継続していく。 5 部活動は取組みを継続していく 6 命の教育は次年度も継続していく。中学校ではガン教育の取組みを行う。

検証項目	6 特色ある教育活動	
目標	1 オリンピック・パラリンピック教育の推進 2 教育支援及び教育相談の充実	
取組	1 オリンピック・パラリンピック教育の講師招聘 2 SCとの連携 3 学園生の情報共有	
	成果	課題と改善方策
	1 オリンピアン講師は招聘できた。 2 都・市のSCとの連携はできた。週1回の校長とSCの報告も取り組めた。 3 小通級と中通級の連携は図れた。	1 オリンピアン講師は次年度も招聘する。オリンピック・パラリンピックの観戦のための取組み。 2 週1回の校長とSCの報告は継続していく。 3 小通級と中通級の連携は継続していく。中学校は通級指導教室の開設と実施を推進していく。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1 働き方改革の推進 2 職員の育成 3 部活動の適正化	
取組	1 夏季閉庁日の設定 2 ノー残業デーの設定 3 教員の進行管理 4 地域人財の活用 5 部活動推進員の活用 6 人材の育成（主任・主幹・管理職）	
	成果	課題と改善方策
	1 夏季閉庁日は実施できた。 2 ノー残業デーは水曜日に設定し実行している。 3 教員の業務管理は自己申告面接時において随時報告を受けている。 4 地域人財の活用はCS委員から職場訪問・未来塾・各種検定等で取り組めた。 5 部活動指導員の活用は野球・卓球で進んだ。 6 主任・主幹・管理職の受験ができた。	1 夏季閉庁日は次年度も実施していく。 2 ノー残業デーは水曜日に設定し実行していく。 3 教員の業務管理は自己申告面接時において随時報告をさせる。 4 地域人財の活用はCS委員から職場訪問・未来塾・各種検定等で取り組める。 5 部活動指導員の活用は拡大していく。 6 主任・主幹・管理職の受験させていく。

令和元年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	1 小学校・中学校・CS委員との合同熟議において、目指す児童・生徒像を創ることができた。 2 小中乗り入れ授業による児童・生徒理解と授業改善 3 学園研究による道徳の授業改善 4 地域未来塾の実施 5 小学校6年によるプレ講座により中学校理解が深まった。 6 CS推進員の導入により地域との連携が深まった。 7 CSカレンダー・CSガイドの作成 8 CS委員のスムーズな交代
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	1 学園ホームページのさらなる更新・活用 2 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 3 小中の交流事業の充実 4 乗り入れ授業のさらなる活性化 5 組織的な学園運営
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	1 学園ホームページ担当者の明確化と内容の精選 2 授業観察や研究授業による授業改善 3 小6プレ講座の継続と小5中学校体験の実施 4 乗り入れの進行管理 5 組織担当者の選任・学園運営委員会による進行管理